

事業の背景・目的

○国の天然記念物イタセンパラは濃尾平野、富山平野及び大阪平野の一部の地域にしか生息しておらず、今では国内希少野生動植物種に指定されている。絶滅が危惧され、地域における生物多様性保全の観点から保全活動が必要である。

○市では、当交付金を活用し、親子参加型事業、興味促進型事業、地域連携型事業、先進事例研究の事業を実施している。本事業により地域連携保全につながる活動を行い、持続的にイタセンパラを保全する活動の推進及び体制構築を目指す。

事業の内容

羽島市内を流れる木曽川に生息する国内希少野生動植物種で国の天然記念物のイタセンパラを地域の宝としての認識を広め、住民や小中学校など地域との連携を促進し、持続可能な保全活動体勢の構築、監視モニタリングの構築を目標としている。そのために、（ア）親子参加型事業、（イ）興味促進型事業、（ウ）地域連携型事業、（エ）先進事例研究の4つの事業を掲げ、イタセンパラを保護・啓発し、生物多様性の重要性や保全意識の醸成を図った。

平成30年度事業内容

- （ア）イタセンパラツアーの開催。
- （イ）市立図書館、市内学校にて飼育展示を実施。
- （ウ）羽島市イタセンパラサポーター制度を開始。
- （エ）全国会議、フォーラムに参加し、他市町の希少種保護活動事例の研究。

令和元年度事業内容

- （ア）イタセンパラ塾の開催。
- （イ）市立図書館、市内学校にて飼育展示を継続。普及啓発ツール作製
- （ウ）サポーターや地域住民を対象にしたプログラムを実施。
- （エ）氷見市へイタセンパラに関する視察を実施。
全国会議にて取組を発表、他市町の活動を研究。



<研修会の様子>

得られた成果



<合同パトロールの様子>

事業の成果

- イタセンパラ認知度は目標値(80%)に近づいており、市民の認知度上昇が実感できた。
- サポーターの登録者数も増加し、木曽川沿いの監視力強化にもつながった。
(令和2年3月31日現在合計171名)

活動継続の見通し

- 新たにイタセンパラを飼育する学校を増加。
 - 市等主催イベントと連携した事業を実施予定。
- さらなる木曽川沿いの監視力の強化、市民の保護意識の醸成を図る。

事業終了後の展開

- 他市町、園館、木曽川水系イタセンパラ保護協議会、小中学校と連携した普及啓発の推進。
 - 特産物のブランド化などの方法で一部財政支援を得る。
- 継続した事業実施の展開を目標としている。